

第3編

これからの長野県づくりの方向

- 1 基本目標
- 2 めざす姿
- 3 基本的視点
- 4 目標の設定

長野県を取り巻く時代の潮流

これからの長野県づくりの方向

基本目標	めざす姿
<p>“ 活力と安心 ”</p> <p>人・暮らし・自然が輝く信州</p>	<p>豊かな自然と 共に生きる 長野県</p> <p>自然と人との共生と調和、健全で豊かな自然の恵みを次代に継承する持続可能な社会を構築</p>
	<p>力強い産業が支える 活力あふれる 長野県</p> <p>回復が遅れる経済の再生をめざし、製造業・観光産業・農林業などの産業を活性化</p>
	<p>安全・安心なる 暮らしをつくる 長野県</p> <p>保健・医療・福祉など、県民が共に安全で安心して暮らせる社会を構築</p>
	<p>未来を切り拓く 人を育む 長野県</p> <p>次代を担い地域を担う子どもたちを育成、生涯を通じて学べる環境を創出</p>
	<p>市町村が主役の 人が輝き地域が輝く 長野県</p> <p>地域経営の主役である市町村との信頼と納得のパートナーシップを通じ、住む人と地域の活力を創出</p>

基本的視点

- めざす姿の実現に向けて県と県民が共有する、県づくりの基本的な視点
- ①優れた特色や資質をベースに世界に開かれた意識で進める県づくり
長野県らしさを生かしながら、世界に開かれた意識で進める視点
 - ②県民の総合力で進める県づくり
今ある資源や限られた財源を有効に活用しながら、県民の知恵と力を結集して県づくりを進める視点

長野県づくりのための施策

5つの施策の柱と44の主要施策（施策体系、施策の展開）

1 自然と人が共生する豊かな環境づくり
(8 施策)

2 地域を支える力強い産業づくり
(8 施策)

3 いきいき暮らせる安全・安心な社会づくり
(13 施策)

4 明日を担い未来を拓く人づくり
(4 施策)

5 交流が広がり活力あふれる地域づくり
(11 施策)

挑戦プロジェクト（7つのテーマ）

将来を見据えた中・長期的な視点から魅力的な長野県を築いていくため、積極的に挑戦していくべき分野横断的な7つのテーマ

- 一人当たり県民所得全国レベルへの挑戦
豊富な地域資源と潜在力を生かして、豊かさを実感できる地域経済を構築
- 市町村が主役の元気な県づくりへの挑戦
分権時代にふさわしい行財政基盤強化をめざす市町村を支援
- 健康長寿NO.1確立への挑戦
各世代の健康づくりなど、全国に誇る健康長寿県の特徴を将来にわたって継承する取組を推進
- 次代を担う多彩な人材育成県への挑戦
教育に熱心な歴史的・文化的風土を生かし、子どもたちの生きる力を育むなど、創造性ある多彩な人材を育成
- 出産・子育てにやさしい県への挑戦
地域・県民の連携で安心して出産・子育てできる環境を創出
- 地球温暖化対策先進県への挑戦
豊かな自然に恵まれた県として、持続可能な社会をめざし、温室効果ガス排出削減を率先して実践
- 減災による安全な県づくりへの挑戦
被害を最小限に抑える減災対策を着実に推進

各地域別の特性と発展方向

各地域の個性や特性を生かした発展方向

- 佐久地域
- 上小地域
- 諏訪地域
- 上伊那地域
- 飯伊地域
- 木曾地域
- 松本地域
- 大北地域
- 長野地域
- 北信地域

計画推進のための県の取組

計画の着実な推進のための、県政運営の基本的姿勢・態度

- ①県民との協働と開かれた県政
- ②市町村が主役の分権改革
- ③行財政改革の推進
- ④県有施設の適切な維持管理
- ⑤政策評価による計画の推進

1 基本目標

私たちを取り巻く激しい時代の潮流を乗り越え、現状に甘んずることなく、新しい時代にふさわしい長野県を築いていくため、この計画の基本目標は、本県のめざす姿を踏まえて、

“活力と安心” 人・暮

とします。

2 めざす姿

(1) 「豊かな自然と共に生きる長野県」をめざして

現在、地球温暖化をはじめとする地球規模の環境問題が顕在化しつつあり、またリサイクルの推進等による循環型社会の構築など、世界的に環境問題に対する関心が高まっています。

長野県は、豊かな森林や清らかな水、四季の変化に富んだ美しく豊かな自然環境に恵まれています。これらは、暮らしやすさや観光などの長野県の魅力に深く関わる資源の一つであり、今に生きる人々が守り、後世に引き継いでいかなければならない大切な財産です。

このため、あらゆる面で常に自然と人との共

生や調和に配慮した先進的な県をめざすとともに、健全で豊かな自然の恵みを次代にも継承することのできる持続可能な社会を構築し、本県の魅力を県内外はもとより、世界に向けて発信し続けることが必要です。

また、少子高齢化や人口流出により中山間地域や農山村の衰退が懸念される中で、食料や木材の供給、水源のかん養、大気の浄化、国土の保全など、これらの地域が持つ多面的機能を、未来へ向けて維持し、継承していくことが重要です。



らし・自然が輝く信州

(2)「力強い産業が支える活力あふれる長野県」をめざして

長野県の一人当たり県民所得は、平成12年度（2000年度）には全国第10位でしたが、平成16年度（2004年度）には第20位と順位を下げています。県内総生産（名目）も平成12年度をピークに落ち込み、本県経済は全国と比べ回復に遅れがみられます。このほか、製造品出荷額、観光地利用者数や観光消費額、小売・卸売販売額、建設投資額、農業や林業の生産額等の指標においても、低調な状態が続いています。

このように経済が低迷する中で、活力あふれる長野県づくりを進めるためには、県民の暮らしや生活の糧として、製造業、観光産業、農林業をはじめとする産業を活性化させ、経済の再生と持続的な発展を図ることに早期に取り組む必要があります。県としても役割を果たしていかなければなりません。これは、県民に対する行政サービスを持続的に提供していくため、中・長期的に安定した税源をかん養していくという観点からも、極めて重要です。

そのためには、これからの産業を担う意欲ある人材の育成、創業や就業の支援を推進するとともに、グローバル化の進展を本県産業の飛躍

のチャンスと捉え、高付加価値化、新分野開拓、販路拡大をさらに推し進め、世界市場をターゲットとした展開を図っていくことが重要です。

特に、本県経済の牽引役となっている製造業については、全国に誇る加工組立型産業の集積や、豊かな自然から生み出される農林水産物等の豊富な地域資源など、本県が従来から備え持つ潜在力を最大限に生かし、マーケティング力や技術力の強化、企業誘致、産業人材の育成などの取組を総合的に進め、重点的に活性化を図る必要があります。

また、すそ野の広い観光産業についても、本県の豊かな地域資源を生かした長野県らしい骨太の観光振興を推進し、その活性化を図る必要があります。

さらに、活力ある産業社会を支える人材を育成するためには、雇用の確保を図るとともに、労働者が仕事と家庭生活や地域社会活動などの調和（ワークライフバランス）を保ちながら能力を十分発揮できる、働きやすい労働環境をつくることが重要となります。

(3) 「安全・安心な暮らしをつくる長野県」をめざして

本格的な少子高齢、人口減少の時代を迎え、将来への不透明感が広がる中で、安全で安心な暮らしを求める意識、人と人との支え合いや地域コミュニティの重要性に対する意識が一層高まっています。

こうした時代には、性別や障害の有無、国籍の違いなどにかかわらず、子どもからお年寄りまで幅広い世代の誰もが、健やかに安心して暮らせる社会を築いていくことが重要です。

このため、保健・医療・福祉が連携して、一人ひとりの自覚と責任を基本とした生涯にわたる健康づくりに対する支援、安心して受けられる医療体制の充実のほか、行政をはじめ、家庭、

地域など県民相互の支え合い、助け合いによる福祉の充実、出産や子育ての支援体制の構築など、誰もが健康長寿を享受し、共に安心して心豊かに暮らすことができる社会をつくる必要があります。

また、県民の生命と財産を守り、安全な生活を確保するため、自然との調和に配慮しながらも、被害を最小限に抑える視点に立った災害に強い県土づくりや防災体制の強化などハード・ソフト両面からの積極的な減災対策や、平穏な暮らしを脅かす犯罪のない社会づくりの推進が欠かせません。



(4) 「未来を切り拓く人を育む長野県」をめざして

将来にわたって豊かで活力ある地域をつくっていくための基本は、「人づくり」にあります。次代を担い、地域を担う子どもたちを育ていくためには、その持てる個性や能力を伸ばし、確かな学力とともに、地域を知り、学ぶことを通じてその新しい時代を切り拓いていく知恵を身につけること、豊かな人間性・社会性や生きる力を育むこと、心身の健康の基本となる食育*

の推進などが重要です。

そのためには、学校と家庭や地域が一体となって、社会全体で心豊かでたくましい子どもたちの育成に取り組んでいく必要があります。

また、自らの個性や能力を伸ばし、その成果を社会の中で生かして自己実現を図ることができるよう、生涯を通じて学べる環境づくりを進める必要があります。



【用語解説】

*食育：様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。

(5) 「市町村が主役の人が輝き地域が輝く長野県」をめざして

地方分権時代においては、県民の暮らしに最も身近な市町村が地域経営の主導的役割を担い、主体的に自らの責任のもとで活力ある地域を創造していくことが求められます。

また、多くの中山間地域や農山村を含めた、地理的・自然的・社会的条件が異なる多様な地域から構成される広大な県土を有する長野県が、各地域の実情に応じた均衡ある発展を続けるためには、個性豊かで魅力あふれる地域が活発に交流し、互いに刺激を受け合いながら、それぞれの個性を开花させていくことこそが、その原動力となります。

このため、県と市町村との信頼と納得のパートナーシップのもとに、市町村が地域経営の主役を担うのにふさわしい行財政基盤の強化や、市町村や住民が自主的・主体的に行う活力ある地域づくりのための活動を積極的に支援していくことが重要です。

一方、個人の価値観やライフスタイルの多様

化が進む中で、今後は、一人ひとりが地域社会の一員として地域との関わりを深め、地域に誇りを持って、自分の個性や能力を発揮しながら、社会参加や社会貢献を図ることができる環境をつくることにより、地域社会全体の活力を生み出していくことが一層重要となります。

このため、一人ひとりがかけがえのない存在として尊重され、それぞれの個性を大切にしながら、生涯を通じて能力や価値観を生かすことができる社会づくりを進めるとともに、ボランティア・NPOなどの多様な主体の活動やそれらの主体と行政との協働を一層促進することが必要です。

さらに、県民の暮らしや産業などを支え、交流・連携により可能性を広げる交通基盤の充実が必要です。なお、中山間地域や農山村においては、生活・生産基盤、伝統文化など、総合的な地域づくりの支援も重要です。



3 基本的視点

めざす姿の実現に向け、より効果的に取組を進めるためには、次の県づくりの基本的視点を県民、市町村などの多様な主体と県が共有することが重要です。

(1) 優れた特色や資質をベースに世界に開かれた意識で進める県づくり

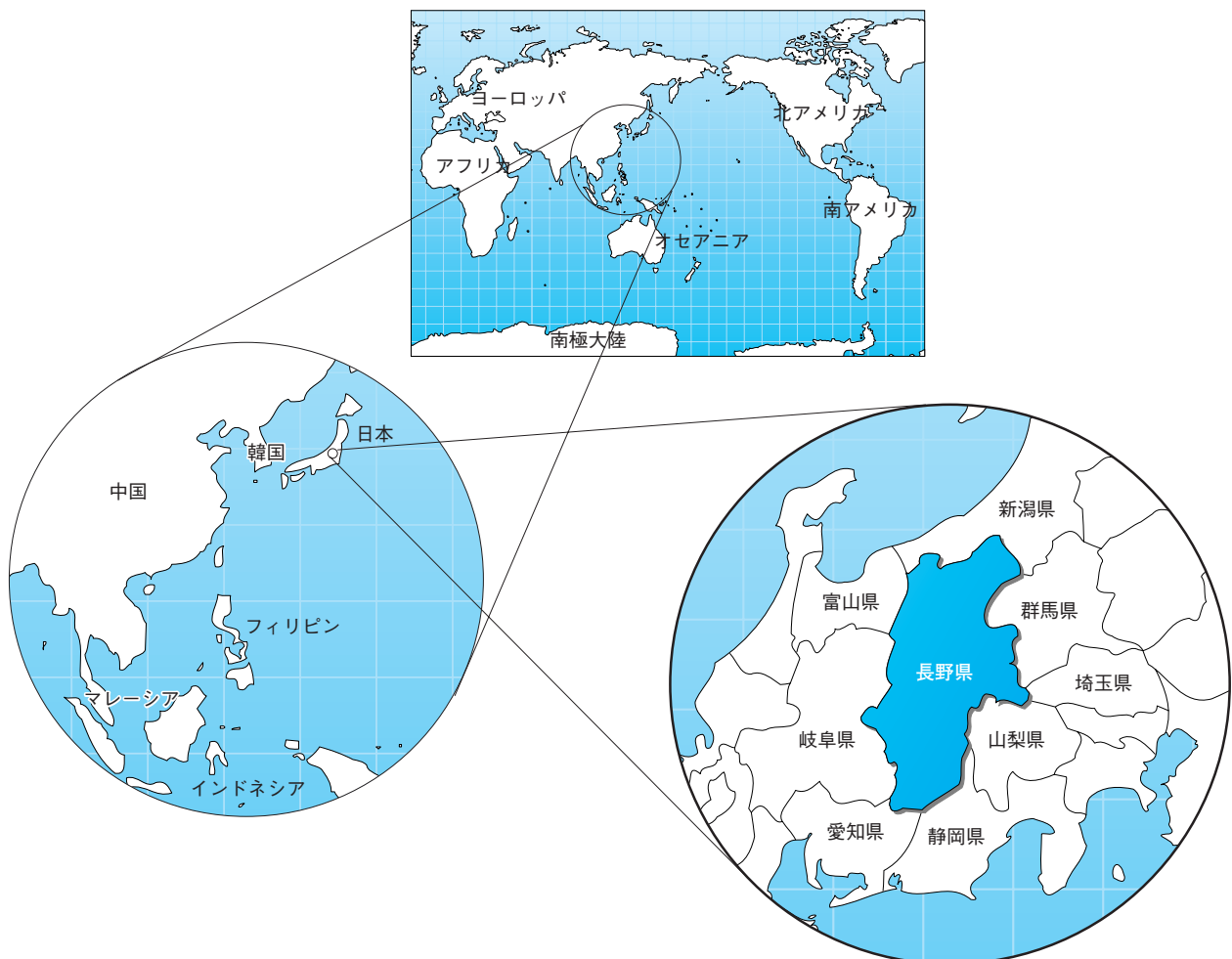
日本列島のほぼ中央に位置する長野県は、大都市圏に近接し、東日本と西日本、太平洋側と日本海側とをつなぐ地理的条件にあります。近年、高速交通網や情報通信技術の飛躍的な発展に伴って、国内、海外との交流はますます拡大しています。

また、全国有数の広大な県土を有し、豊かな森林や良好な水・大気環境、自然と人との関わりによって育まれた美しい景観、暮らしやすい気候や住環境、個性や多様性に富んだ地域と多彩な伝統・文化芸術、技術力のある地域産業、教育的な気風と勤勉性に富む県民性、健康長寿など、先人から受け継がれ、可能性を秘めた優れた資質や世界に誇れる特色が数多くあります。最近の例では、オリンピック、パラリンピック、

スペシャルオリンピックスを通じた県民の国際的な意識の高まりや、それらを成功させた経験と「NAGANO」としての自信も挙げられます。

このような多くの優れた特色や資質（長野県らしさ）を発掘し、さらに磨き上げて多様な主体が共有し、強みとして最大限に生かすことによって、長野県の魅力や競争力を高め、個性をひとときわ輝かせることは、これからの県づくりにとって極めて重要な視点です。

同時に、グローバル化の一層の進展を踏まえつつ、地球的な視野で考え、行動し、世界の人々を受け入れ、積極的に交流するなど、世界に向かって開かれた意識を持って県づくりを進めていくことが重要です。



(2) 県民の総合力で進める県づくり

少子高齢化や人口減少の急速な進行、国と地方を通じた財政構造改革や地方分権改革の進展など、地方自治を取り巻く環境が大きく変化する中、長野県もこれまでにない厳しい行財政運営を迫られ、その目的や効率性をより吟味しながら継続して発展していくことができる地域経営を確立するという大きな課題に直面しています。

こうした中で、激化する地域間競争を克服して、長野県が将来にわたって発展を続けるためには、県が自ら、思い切った行財政改革や、既存の資源や限られた財源の有効活用を図り、この計画に基づく施策を戦略的に実行できる行財政基盤を確立する必要があります。

また、同時に、県や市町村はもとより、多様な主体と行政とが地域の課題を共有し、自助・共助・公助を基本とした相互の連携、協働を積

極的に推進することにより、県民の総合力を発揮して県づくりに取り組んでいく視点が重要です。

近年では、県民の社会参画や社会貢献意識の高まり、価値観の多様化などが相まって、住民自治組織や地域コミュニティ、個人、ボランティア・NPO、各種団体、企業などの多様な主体が、自発的、意欲的に、自らの責任で住みよい地域づくりや地域課題の解決などにあたる公共性・公益性のある活動が活発になっています。

今後は、このような多様な主体と行政との協働を通じて、多様な担い手の特性や能力が最大限に発揮され、従来の行政の手法だけでは対応に限界がある領域において県民の様々な知恵と力が結集し、新たな地域の魅力や活力を生み出し、社会全体の発展を推し進める大きな力になることが期待されます。



4 目標の設定

この計画では、これからの長野県づくりの方向として5つの「めざす姿」を描き、その実現に向けた5つの「施策の柱」と各柱を構成する「主要施策」により施策の体系を組み立てるとともに、特に積極的に取り組んでいく「挑戦プロジェクト」を設定しました。

計画をより実効あるものとするためには、めざす姿やその実現のための施策、実現すべき目標を県民と共有することが重要となることから、できるだけ具体的でわかりやすい目標（指標）を設定することとしました。

(1) この計画で掲げる目標（指標）の種類は、次のとおりです。

区分	種類	説明
挑戦プロジェクト	挑戦目標	それぞれのテーマでめざしていく、本県の将来の姿を表すこととなる目標 ○プロジェクトの進捗状況については、各テーマを構成する施策に対応した主要施策の達成目標により示していきます。
主要施策	達成目標	主要施策ごとに設定する、計画期間での達成をめざす目標（主要施策のねらいを具体的に例示する、以下の2種類の指標）
	①県民指標	県だけでなく、県民をはじめとする多様な主体の活動によって実現をめざすもの ○県以外の主体の取組や、県民ないし関係する地域社会の構成員の一人ひとりが目標を共有しながら地域社会全体で達成をめざすもので、県の行政活動だけでは達成困難なものです。 ○その達成度は、個々の県民の行動や社会経済情勢の変化など様々な要因の影響に左右される度合いが大きいため、目標の到達レベルを客観的に設定することは困難な面はあるものの、県づくりの方向性やめざすべき姿を県と県民などの多様な主体が共有し、共に努力していく道標として設定します。
	②県活動指標	主として県の行政活動によって実現をめざすもの ○主に県の行政活動としての取組や事務事業の実施を通じて達成をめざす目標です。

(2) 達成目標に掲げる指標や目標値については、社会経済情勢の変化や計画の進捗状況に応じて内容の見直しを行うなど、弾力的に対応していきます。

(3) 計画の実効性を確保するため、主要施策の達成目標を点検、評価し、施策・事業の見直しや改善につなげる目標管理を適切に実施します。（☞p.238）